



令和3年度

事業報告書

一般社団法人 北海道軽種馬振興公社

議案第1号 令和3年度事業報告

令和3年度事業報告（令和3年4月1日から令和4年3月31日）

当社は、ホッカイドウ競馬を継続かつ安定的に運営し平成28年3月に北海道が策定した第2期「北海道競馬推進プラン」を着実に推進するため、「北海道競馬の実施に関する業務」の委託を受け、馬産地の豊富な馬資源と屋内調教用坂路など競馬場施設の効率的利用を基本とし競馬事業の運営にあたった。

1. 公社運営に関する会議等

(1) 総会

ア 第45回通常総会

令和3年7月30日

- ・令和2年度事業報告
- ・貸借対照表、正味財産増減計算書及び公益目的支出計画実施報告書について
- ・役員を選任について

イ 第1回臨時総会

書面決議による開催

- ・役員を選任について

(2) 理事会

ア 令和3年度第1回理事会

令和3年7月12日

- ・令和2年度事業報告
- ・貸借対照表、正味財産増減計算書及び公益目的支出計画実施報告書について
- ・役員を選任について
- ・第45回通常総会の開催について

イ 令和3年度第2回理事会

令和3年7月30日

- ・理事長・副理事長及び専務理事の選定について

ウ 令和3年度第3回理事会

令和3年12月3日

- ・役員を選任について
- ・第1回臨時総会について
- ・電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程の制定について

エ 令和3年度第4回理事会

令和4年3月28日

- ・ 事業運営の基本方針
- ・ 令和4年度事業計画案及び収支予算案

(3) 監査

監事監査

令和3年6月17日

- ・ 令和2年度事業報告並びに収支決算に係る監査

2. 北海道競馬実施事業

(1) 競馬事業費について

公社が道から委託及び補助を受け実施した業務の事業費は34億96百万円。

内訳	・ 競馬事業費	26億93百万円（予算額27億62百万円）
	・ 管理事業費	8億3百万円（予算額9億63百万円）

(2) 開催日程について

令和3年度の開催は、新型コロナウイルス感染症の影響により、本場は開幕から5月5日まで事前応募による入場制限でのスタートとなり、その後も国や北海道から発せられる措置等により無観客や制限を設けての開催となりました。場外発売所においても同様に休業や時間短縮営業を繰り返すなか、濃霧による3競走取り止めがありましたが、当初の計画どおり82日間実施することが出来ました。

結果、発売成績は昨年度を上回り記録となる522億9,969万円（計画対比139.1% 前年対比100.5%）、となりました。

また、1日の発売金額についても、JBC当日の11月3日18億2,199万2,390円となり、さらに1開催の発売金額も第15回開催の49億9,177万1,350円とそれぞれの記録を更新しました。

(3) 報償費について

令和3年度は重賞競走について、2歳最高峰のJBC2歳優駿競走を充実させ

るため2歳重賞競走の1着本賞金を増額しました。3歳以上は発売額の見込める2歳重賞競走の1着本賞金を増額したほか、3歳および3歳以上の格付において準重賞競走を新設いたしました。

また、重賞・準重賞競走以外についても、賞金配分の方式の統一、出走手当の一部見直しに加え、調教師・きゅう務員手当の見直しや、騎手手当の最低着順単価など幅広く増額しました。

なお、春期における馬資源及び競走数確保のため、輸送費の補助事業や早期出走奨励金の支給、馬購入費に対する補助などの事業について、それぞれ継続・拡大して行いました。

・報償費(道の根幹事務費)

報償費総額	27億36百万円
(うちJRA協力金)	2億96百万円)
(うちJBC協会寄付金)	20百万円)

(4) 発売拡大の取り組み

今年度も集客を目的とする積極的なイベント控える方針のもと、在宅勤務をはじめとする行動規制のなかで生まれた、新たなファン層の定着、これまでの地方競馬また土日を中心とするJRAファンに対し、他場とは異なる馬産地ホッカイドウ競馬ならではの魅力をインターネット、その他媒体を通じて発信するとともに道産品のプレゼント企画等に切り替え実施しました。

場外発売所においても、入場制限等により集客を目的としたイベント等が実施出来る状況になく、新北海道スタイルを周知徹底しての発売に留まりました。

ア 集客イベント

例年実施してきた、開幕日の「開幕サンクスデー」、ゴールデンウィークの「春のケイバまつり」、夏休み、お盆時期のイベントについては、ネット等を通じたファンプレゼント中心の展開となりました。

また、スポーツ紙タイアップによる広告や雑誌などさまざまなメディアを活用して、安全性の周知や情勢に合わせた新たな購入スタイルについての情報発信に努めました。

イ 他主催者との連携強化による相互発売

南関東とホッカイドウ競馬の相互発売については、制限が残る中での場外発売の収益維持の重要な役割を果たしております、今後においても更なる連携強化に努めてまいります。

ウ 電話・インターネット投票

本場、場外がこのような状況下である一方、引き続き好調を維持するインターネット投票で、更なる情報提供の一環として拡充した、無料専門紙情報をはじめネット投票業者と連携した道産品のPRにつながるプレゼント企画の充実を図りました。

JRAネット投票（IPAT）の発売については69日間（令和2年度実績69日間）実施しました。

エ 全国発売競走

全国重賞シリーズであるグランダム・ジャパン、ダービーシリーズ、スーパースプリント競走、3歳秋のチャンピオンシップ、未来優駿などのシリーズ競走に参画し、なかでも2歳シリーズでは北海道所属馬が好成績を残し、NARの年度代表馬に選出されたほか、若手騎手によるヤングジョッキーズシリーズでは、ファイナルラウンドへ進出するなど各シリーズでの活躍により、全国での発売促進につながりました。

オ JRA発売

発売状況は、映像提供等に制約が残るものの、昨年と比べ発売日数及び発売競走数が改善されたことにより、全ての発売所において前年の売得金額を大きく上回る結果となりました。

具体的な発売状況は、都市圏にある札幌駅前・札幌中央・旭川については、5/16～6/20の間、本場である門別については、5/22～6/20、8/28～9/26の間、緊急事態等の措置により休止となりました。

また、江別については、8/21～29の間施設移転のための休止、その他、札幌駅前・札幌中央・旭川・江別・千歳・石狩・小樽・岩見沢については9/30までの間、都度発表された措置の状況により、20時までの営業制限を繰り返し実施することとなりました。

発売日数は札幌駅前・札幌中央・旭川・江別及び門別の5場を除く12場については、予定の106日間発売できましたが、江別は102日間、札幌駅前・札幌中央・旭川は95日間、門別については85日間の発売にとどまりました。

発売場ごとの一日平均売得金額を前年と比較すると、JRA発売分は旭川・門別・岩見沢・小樽・浦河の5場で前年を下回り、その他12場では上回る結果となりました。

一方他場発売分は、昨年と結果とは逆に江別・石狩・函館港町、札幌駅前の4場が前年を上回ったものの、その他13場は下回る結果となりました。

入場者数一日平均については、門別を除く16場で上回る結果となりました。

(5) 競馬番組について

競馬番組は、競馬事業の根幹部分であることから、ファンに魅力ある競走を

提供していくことが重要です。

ホッカイドウ競馬では、日本中央競馬会や地方競馬全国協会並びにジャパンブリーダーズカップ協会、日本軽種馬協会など各方面からのご支援やご協力のもと、各世代においてバリエーション豊かな競走距離を編成することにより競馬番組の充実を図りました。

ア JRA認定競走

JRA協力金のもと、全国最多の112競走を実施しました。

- ・重賞競走等 9競走
- ・ウィナーズ 14競走
- ・フレッシュ 54競走
- ・アタック 35競走

イ JBC協会協賛 スタリオンシリーズ競走

ホッカイドウ競馬の特色ある競走として定着し、全国から注目されているスタリオンシリーズ競走を、JBC協会のご支援のもと全59競走実施しました。

- ・重賞競走 25競走
- ・特別競走（3歳以上） 17競走
- ・スタリオンプレミアムシリーズ競走 17競走

ウ 公益社団法人日本軽種馬協会による副賞贈呈事業

牝馬の所有意欲の継続と牝馬限定競走の維持拡大による軽種馬生産経営安定化に資する観点から、日本軽種馬協会の支援のもと実施する「牝馬限定競走勝馬馬主への副賞贈呈事業」について全52競走を対象に実施しました。

（総額1,260万円）

エ JBC協会協賛「きゅう舎スタッフ特別賞」

きゅう舎関係者の技術向上と意欲の向上を図るため、JBC協会のご支援のもと重賞競走及び3歳条件競走で優勝したきゅう舎に特別賞を交付するJBC協会「きゅう舎スタッフ特別賞」を贈呈しました。

- ・対象競走
 - 2歳重賞競走 9競走
 - 3歳重賞競走 3競走
 - 3歳条件競走 24競走
- ・交付金
 - 重賞競走 10万円

3歳条件競走 5万円

オ JBC協会協賛「カウントアップチャレンジ2021」

3歳以上の重賞競走を距離適性に応じてシリーズ化し、各カテゴリー（カウントアップS、カウントアップM、カウントアップL）において複数回優勝した馬主及び調教師に対して、JBC協会からボーナスが贈呈されました。

・2021対象馬

カウントアップS	アザワク2勝	(角川きゅう舎)	200万円
カウントアップM	クインズサターン3勝	(安田きゅう舎)	400万円
	リンノレジェンド2勝	(桜井きゅう舎)	200万円

カ 優良2歳馬導入促進事業の実施

良質な2歳馬の地方競馬への早期入厩促進を図ることを目的に、地方競馬全国協会が実施する事業を活用し、2歳限定競走（JRA認定競走を除く）において付加賞金を1着馬から5着馬までの馬主に贈呈しました。

・付加賞金（進上金、番組賞金加算対象外）

1着 50万円， 2着 14万円， 3着 10.5万円， 4着 7万円， 5着 3.5万円
(1R 85万円) ・実施競走数 55競走

キ 地方競馬全国協会シリーズ競走への参加

・スーパースプリント

短距離競走をシリーズ化して実施する「スーパースプリントシリーズ」に参加。

・対象競走「グランシャリオ門別スプリント(ターオブロンズ賞)」1着本賞金500万円

実施日 6月29日(木) 距離1,000m

・グラндаム・ジャパン

牝馬重賞競走をシリーズ化して実施する「全国牝馬重賞シリーズグラндаム・ジャパン」に参加。

・対象競走「ノースクイーンカップ(シニスターミニスター賞)」1着本賞金500万円

実施日 7月15日(木) 距離1,800m

・対象競走「フリーダースゴールドカップ」1着本賞金3,100万円

実施日 8月12日(木) 距離2,000m

・対象競走「エーテルワイス賞」1着本賞金2,000万円

実施日 10月14日(木) 距離1,200m

・ダービーシリーズ

ジャパンダートダービーに向けた地方競馬の3歳重賞体系整備を目的とし、全国8か所で実施される「ダービーシリーズ」に参加。

・対象競走「**北海優駿 H1(ルヴァンスレーヴ賞)**」1着本賞金**1,000万円**

実施日 6月17日(木) 距離2,000m

・3歳秋のチャンピオンシップ

ダービーグランプリに向けた地方競馬の秋の3歳重賞体系整備を目的とし、全国10か所で実施される「3歳秋のチャンピオンシップ」に参加。

・対象競走「**王冠賞 H2(サトノク라운賞)**」1着賞金**500万円**

実施日 7月22日(木) 距離1,800m

・未来優駿

兵庫ジュニアグランプリや全日本2歳優駿に向けた2歳重賞体系整備を目的に設定され、全国7か所で実施される「未来優駿」に参加。

・対象競走「**サンライズカップ H1(マクフィ賞)**」1着賞金**500万円**

実施日 9月30日(木) 距離1,800m

・ヤングジョッキーズシリーズ

若手騎手の騎乗数の増加及び騎乗技術向上を図るためJRAと地方の見習騎手が参加する騎手交流競走を「2021 ヤングジョッキーズ トライアルラウンド門別」として実施しました。

実施日 8月18日(水) 2競走

(6) ファンサービスについて

従来実施された企画等について、様々なケースを想定し企画準備を進めたが最終的にコロナの影響が収まらず、各イベント、ファンサービスについては、その時々で実施可能な範囲に留まりました。

そのなかでも、在宅投票の道内外のファンに向けて、オフィシャルホームページでの情報提供の充実を図ったほか、連携企業をはじめ北海道を拠点とする企業とタイアップしたプレゼント企画を様々なメディアを通じ実施しました。

また、これまでのタイアッププロスポーツクラブのほか、新たなスポーツクラブの協力を得て、双方のファンへの認知向上を図る足がかりとして、合同プレゼント企画を実施しました。

実施計画にありました、以下の企画等につきましても、取り止めや形式を変え

ての実施となりました。

ア ポイントカードUmacaについて

コロナ禍から、本場及び全場外発売所での実施を休止しました。

イ キャッシュレス投票システムについて

お客様が、キャッシュレス投票システムで馬券が購入できるように、各施設の配置を見直しています。

ウ 地域吹奏楽部によりファンファーレ演奏

JBC 2歳優駿実施日に、同日開催場である大井との連携として、昨年に引き続き、東京トゥインクルファンファーレと地元富川高校吹奏楽部によるコラボ生演奏を実施しました。

また当日は、生産者の祭典ならびに馬産地を全国へアピールする機会として、道内スタリオンステーション名を競走名とした競走の実施や、ひだかうまキッズ探検隊を招待したほか、鈴木知事が来場しプレゼンターを務めるなど賑わいを見せました。

8月には、びらとりDayに合わせ、コロナ禍において演奏の場を失った平取中学校吹奏楽部を招き安全対策を講じ、ファンファーレ演奏を実施することができました。

エ イベント広場の活用

北海道の四季に合わせた春・夏・秋のイベントにつきましても実施を見送ることとなり、併せて実施ししてきた、地元食材や観光PR「特産市」など場も提供できませんでした。

また、道内スポーツ紙と連携し、スポーツ著名人を招へいしての、管内の児童達を集めたスポーツ教室なども、紙面を活用したプレゼント企画等に切り替え実施しました。

オ 道外新聞への馬柱掲載の充実

発売額が好調に推移するインターネット及び電話投票の更なる発売拡大を図るため、これまで同様広いエリアでの認知を高めるため、関東・東海・関西エリアのスポーツ新聞に馬柱掲載を行いました。

(サンケイスポーツ、日刊スポーツ、スポーツニッポン、スポーツ報知、

東京スポーツ、中京スポーツ、大阪スポーツ、九州スポーツ 8紙2レース掲載)

また、週刊競馬ブックでの重賞競走馬柱掲載やブックオンライン（ホームページ）から重賞予想データの無料ダウンロードも引き続き実施しました。

カ SPAT4及び楽天競馬との連携

これまで実施の南関東電話投票（SPAT4）及び楽天競馬との連携により、会員へのメール配信・ホッカイドウ競馬情報の郵送・動画配信や日高の特産物やオリジナルグッズなどが当たるファンプレゼントの継続実施ほか、ネット上にあふれる各主催者と競合する企画と差別化を図るため、道内の企業の協力を得て北海道ブランドを前面に打ち出した企画をJBC開催に絡め実施し発売拡大を図りました。

キ 無料送迎バスについて

札幌圏からの来場促進を目的とした、札幌駅北口から門別競馬場までの無料送迎バスの運行については、コロナ禍から運行を休止しました。

(7) 北海道著名企業とのコラボレーション

例年実施し、好評を得ていました、北海道を代表する企業とのコラボレーション企画、「MADE IN HOKKAIDO KEIBA」についても従来の形式での実施の可能性を含め、以下の予定で進めて参りましたが全て取り止め、一部をプレゼント企画として実施するに留まりました。

- ・ サッポロビール、ポッカサッポロ
春のケイバまつりでの協賛競走実施やプレゼント抽選会
- ・ AIRDOサンクスデー
機内販売スープの試飲会やオリジナズグッズ抽選会
- ・ レバンガ北海道ティップオフナイター
現役選手とのファン交流会や予想トークステージ
- ・ ソメスサドル
フルールカップ競走の冠協賛や抽選会への賞品提供など
- ・ 北海道コンサドーレ札幌DAY
協賛競走の実施やジュニアサッカー教室など
- ・ ホクレンDAY
協賛競走の実施や北海道農業クイズのイベントなど

(8) 門別競馬場を活用した馬産地の活性化（公益目的実施事業）

公益目的実施事業として、軽種馬生産の振興と馬産地の活性化に資するための各種イベントについても実施に至りませんでした。